

4. 有用藻類分布調査 - I

当真武

はじめに

沖縄は南北に連なる60余の島々からなり、1600キロメートルにおよぶ海岸線を有する。沿岸は発達したサンゴ礁に縁どられていて、この海域にはおよそ300種の海藻類が生育している。その海藻相は亜熱帯性格を示すものが多く、これに多少熱帯性、温帯性のものが入り混んでいる。その中には有用藻類として約30種が知られているが、その他にも今後経済的な価値が出そうな種がある。そういう種を含めこれらの分布域を調査して最終的には沖縄県全体の有用藻類分布図を作成したいと考えている。今回はヒジキとナガミルについて述べるが不備な点があれば機会があり次第追加訂正してゆきたい。

調査結果

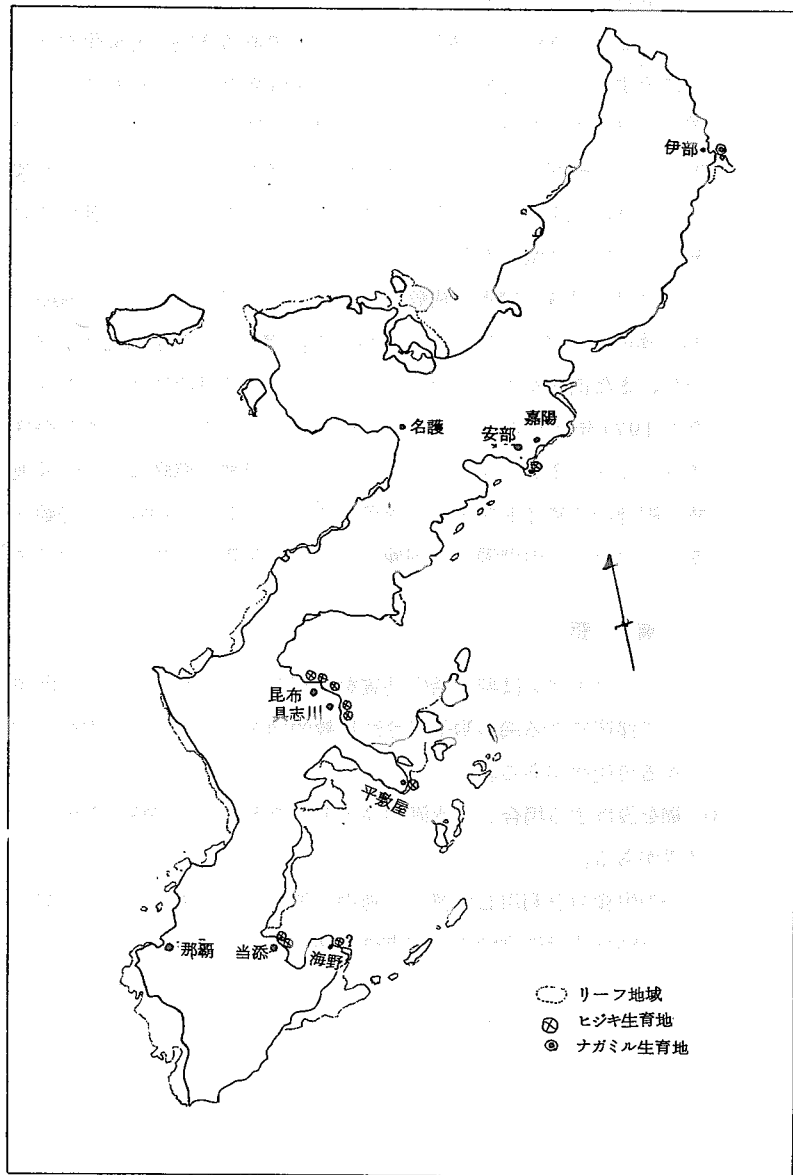


図1 ヒジキとナガミルの分布

4 有田藻類分布調査 - I

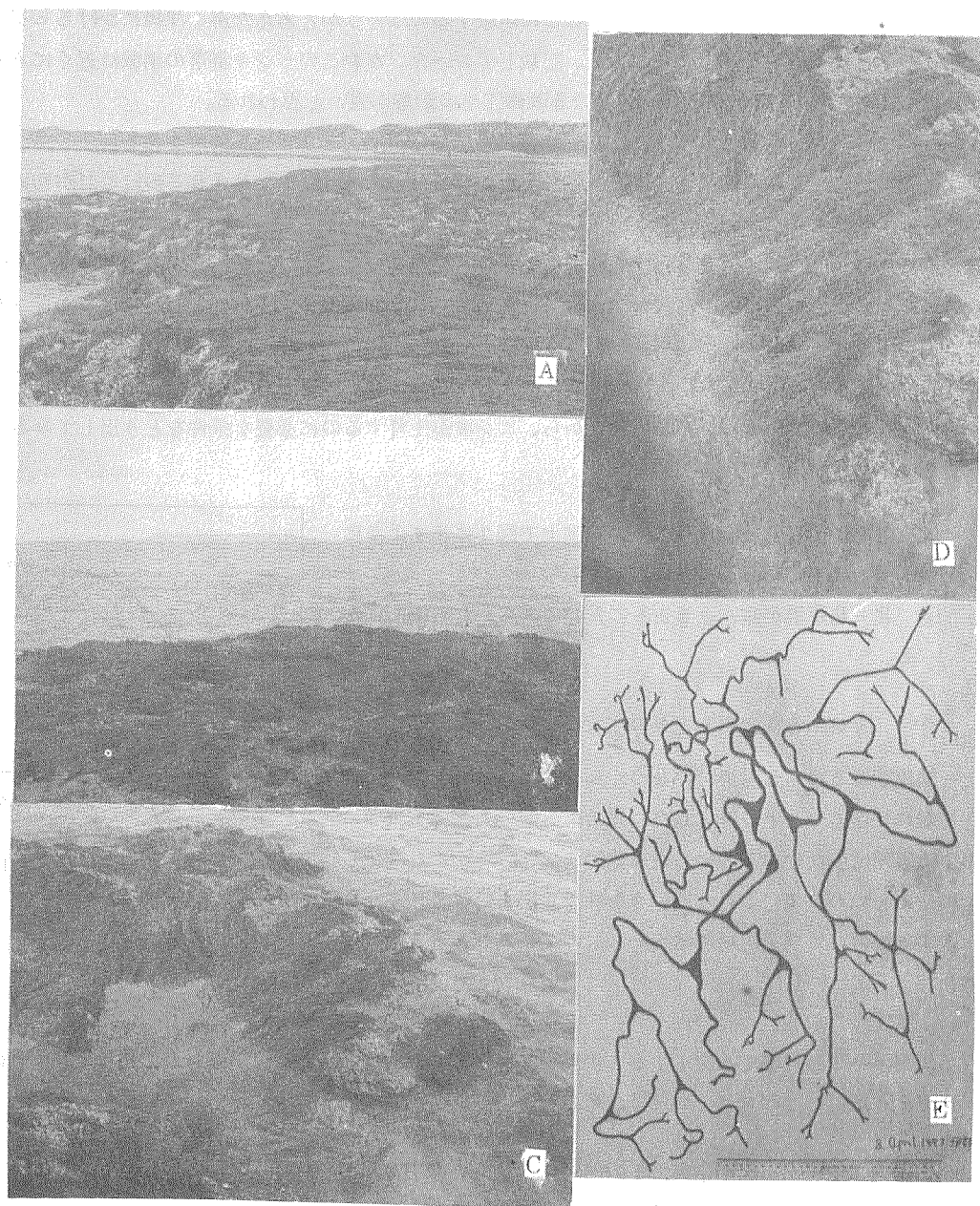


図1 ヒジキの群落とナガミル

A-D 具志川市海岸のヒジキ群落 *Hizikia fusiforme*

Bの対岸に見える島は平安座島 1972年5月4日写す。

E 国頭村伊部産のナガミル *Codium cylindricum*

写真のスケールは 30cm 1973年4月10日写す。

ヒジキの生育地

海野—1967年5月の調査ではかなりの群落を形成していたが、1973年4月の調査では全く観察できなかった。そういうことであるのでここに記載するのはどうかと考えたが、沖縄におけるヒジキの生育する条件を考察するのに必要と考え、記載しておいた。なおこのヒジキ群落の消滅は近くにある海野漁港の1971～1972年にかけての重なる改修工事の影響が強いと思われる。

与那原町当添—図1に示したように中部の具志川と並んで大きなヒジキ群落がある。

平敷屋—勝連半島の先端部に位置する平敷屋がヒジキの産地として記載されるのはこれが初めてであろう。規模は大きくない。

具志川—昆布—図1図2に示すようにかなり広い範囲にわたって群落を形成する。しかし、この一帯は具志川市当局が造船所の誘致をすすめている地帯であり、今後とも生育地として残れるかどうか不安がある。

安部—聞きとり調査から得た情報であるが、安部崎にヒジキ群落があるそうである。

現在知られているヒジキの生育地から、ヒジキが生育するのに必要な条件をとり出してみると次のことがいえる。

- ① 外海に面し、波あたりのよい岩礁上で図2に示すように干満線の中程から下に多い。
- ② 北—北東風が吹くとともに荒波にさらされる場所にある。

ヒジキを採取するときの注意

繁茂期は2月～5月で、卵をつくり、受精卵は1日後に母体を離れて岩につくという。しかし根による繁殖力が強力で卵による繁殖は少ないので、いったん絶滅すると、なかなか回復しにくいといわれている。そういう意味で食用としてヒジキを採取する場合、カマを用いて軟かい部分の茎を刈り取るという配慮が必要である。

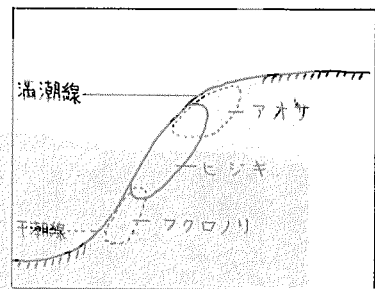


図2. ヒジキとその他の藻の深さによる分布
当添—1973年2月9日

ナガミルの生育地

伊部—国頭村伊部(図1)から伊差場長が1973年4月8日に採集したものである。かなりの量のナガミルが打ち上げられていたようである。

- 参考文献 黒木宗尚, 1965: ヒジキ・浅海養殖 60種
岡村金太郎, 1956: 日本海藻誌